

交野市埋蔵文化財調査報告 2004- I

平成16年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

2005. 3

交野市教育委員会

例 言

- 1 本書は、交野市教育委員会が平成 16 年度国庫補助事業（事業総額 1,000,000 円 国庫補助率 50% 市負担率 50%）として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
- 2 発掘調査は交野市教育委員会が調査主体となって実施した。
- 3 本書で使用した方位は、磁北方位である。

目 次

例 言 目 次

第 1 章	埋蔵文化財発掘調査の状況	1
第 2 章	発掘調査報告	9
第 1 節	森遺跡	9
第 2 節	郡津梅塚・交野郡衙跡	11

挿 図

第 1 図	遺跡分布図	6
第 2 図	調査地位置図(1)	7
第 3 図	調査地位置図(2)	8
第 4 図	調査地位置図	10
第 5 図	掘削地位置図	10
第 6 図	遺構平面図	10
第 7 図	トレンチ東側断面実測図	10
第 8 図	調査地位置図	12
第 9 図	掘削地位置図	12
第 10 図	遺構平面図	14
第 11 図	第 7 トレンチ北側断面図	14
第 12 図	出土遺物実測図(1)	15
第 13 図	出土遺物実測図(2)	16

挿 表

第 1 表	平成 16 年度発掘調査一覧 (1)	1
第 2 表	平成 16 年度発掘調査一覧 (2)	2

第 3 表	平成 16 年度発掘調査一覧 (3)	3
第 4 表	平成 16 年度発掘調査一覧 (4)	4
第 5 表	平成 16 年度発掘調査一覧 (5)	5

図 版

- 図版 1 森遺跡 2004-1 次西側トレンチ全景
- 図版 2 森遺跡 2004-1 次土壙 1
- 図版 3 森遺跡 2004-1 次ピット及び溝状遺構
- 図版 4 森遺跡 2004-1 次東側トレンチ遺構検出状況
- 図版 5 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次第 7 トレンチ全景
- 図版 6 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次第 7 トレンチ完掘状況 (西側)
- 図版 7 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次第 7 トレンチ溝状遺構検出状況
(東側)
- 図版 8 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次第 7 トレンチ遺構完掘状況 (東側)
- 図版 9 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次出土遺物(1)
- 図版 10 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次出土遺物(2)

報告書抄録

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況

交野市教育委員会では平成16年4月1日から平成17年2月28日に至る間、交野郡衙跡他21件の補助事業に係る発掘調査を実施した。埋蔵文化財の届出件数は、平成17年2月28日現在で108件であり、昨年同時期における届出件数が95件であることから、若干増加している。ここ数年のデータでも届出件数は、増加傾向を示している。

工事の種別では、個人住宅建設が全体の3割、分譲住宅建設が5割、その他2割となっている。例年みられる共同住宅等の開発に伴う届出は減少している。

遺跡別に見てみると届出件数の最も多かったのは、交野郡衙跡の40件、ついで東倉治遺跡の18件、森遺跡の13件で、特に交野郡衙跡の場合、分譲住宅建設に伴う届出が大半を占めていた。また森遺跡の場合は区画整理事業後の土地の利用として、共同住宅（マンション）建設に伴う届出の提出されるケースが多かった。今後もこのような傾向が引き続き見られるものと思われる。なお届出の内訳は、確認調査36件、立会調査3件、慎重工事69件となっている。

今年度補助事業に係る確認調査の対象となった遺跡は、交野郡衙跡、郡津梅塚・交野郡衙跡、天田神社遺跡、森遺跡、寺村遺跡、廃安養寺、東倉治遺跡、倉治遺跡の9遺跡19件である。このうち遺構確認のため調査範囲を広げた遺跡は郡津梅塚・交野郡衙跡2004-1次、森遺跡2004-1次調査区の2調査区であり、調査内容については、P9～P13に記述した。各調査区の詳細については別に一覧表を記載する。

平成15年度届出分

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
1	16.4.2	東倉治遺跡 2004-1次	東倉治4丁目 2212	調査区中央部道路予定部分に約1.4×2.6m、約1.4×2.3mのトレンチを設定し、重機にて約0.6mの深さまで掘削の後、人力にて精査した。遺構・遺物は検出しなかった。

第1表 平成16年度発掘調査一覧(1)

平成 15 年度届出分

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
2	16. 8. 5	交野郡衙跡 2004-4 次	郡津 4 丁目 591-1 の一部	調査区北西隅に約 0.9×0.9m のトレンチを設定し、人力にて約 0.7m の深さまで掘削を行った。遺構・遺物は検出しなかった。

平成 16 年度届出分

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
3	16. 4. 30	倉治遺跡 2004-1 次	東倉治 1 丁目 450-2. 451-1	調査区中央西側部分に約 1.0×1.0m のトレンチを設定し、重機にて約 0.9m の深さまで掘削の後、人力にて精査した。遺構・遺物は検出しなかった。
4	16. 5. 19	交野郡衙跡 2004-1 次	郡津 1 丁目 391. 392-1. 393-1	調査区内中央部分に約 1.3×1.3m、約 1.9×1.6m、約 2.3×1.1m のトレンチを設定し、重機にて約 0.3m の深さまで掘削の後、人力にて精査した。遺構・遺物は検出しなかった。
5	16. 4. 16 ～ 16. 5. 14	森遺跡 2004-1 次	森北 1 丁目 101-1	調査区中央部分に約 1.8×9.3m のトレンチを設定し、重機にて約 1.0m の深さまで掘削の後、人力にて精査した。古墳時代の柱穴、溝状遺構などを検出した。 (本書 9 ページに記載)
6	16. 6. 11	交野郡衙跡 2004-2 次	郡津 3 丁目 1371-1. -4. -5 . 1405-3 の一部. 1408-3	調査区中央部分に約 1.6×2.5m のトレンチを設定し、重機にて約 1.0m の深さまで掘削の後、人力にて精査した。遺構・遺物は検出しなかった。

第 2 表 平成 16 年度発掘調査一覧(2)

平成 16 年度届出分

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
7	16. 7. 6	廃安養寺 2004-1 次	神宮寺 2 丁目 211 外 2 筆	調査区中央部分に北側より約 3.0×1.1m、約 2.8×1.1m、約 2.2×1.0m のトレンチを設定し、重機にて約 0.7~0.8m の深さまで掘削の後、人力にて精査した。第 2 トレンチ第 3 層より瓦器片等を検出したが、遺構は検出しなかった。
8	16. 7. 29	交野郡衙跡 2004-3 次	幾野 2 丁目 20-14	調査区南東部分に約 0.9×0.9m のトレンチを設定し、人力にて約 0.9m の深さまで掘削を行った。遺構・遺物は検出しなかった。
9	16. 7. 29	森遺跡 2004-3 次	森南 3 丁目 133-2	調査区北西部分に約 0.8×0.9m のトレンチを設定し、人力にて約 0.6m の深さまで掘削した。遺構・遺物は検出しなかった。
10	16. 10. 22	焼垣内遺跡 2004-1 次	青山 3 丁目 2155-1	調査区北側部分に約 1.0×1.5m のトレンチを設定し、重機にて約 2.0m の深さまで掘削の後、人力により精査を行った。遺構・遺物は検出しなかった。
11	16. 12. 1	森遺跡 2004-4 次	森北 1 丁目 70・78	調査区北東部分に約 1.0×5.6m のトレンチを設定し、重機にて約 1.6m の深さまで掘削の後、人力により精査を行った。遺構・遺物は検出しなかった。

第 3 表 平成 16 年度発掘調査一覧(3)

平成 16 年度届出分

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
12	16. 12. 2 ～ 16. 12. 3	倉治遺跡 2004-2 次	倉治 1 丁目 1460-18 の一部	調査区東側部分に約 1.5×2.0 mのトレンチを設定し、人力にて約 1.5mの深さまで掘削を行った。遺構・遺物は検出しなかった。
13	16. 12. 7	天田神社遺跡 2004-1 次	私市 3 丁目 11. 12	調査区西側部分に約 2.2×3.6 mのトレンチを設定し、重機にて約 1.2mの深さまで掘削の後、人力により精査を行った。遺構・遺物は検出しなかった。
14	16. 12. 20 ～ 16. 12. 21	交野郡衙跡 2004-5 次	郡津 1 丁目 398-5	調査区中央部分に約 2.4×4.8 mのトレンチを設定し、重機により約 1.9mの深さまで掘削の後、人力により更に約 0.5mの深さまで掘削を行った。遺構・遺物は検出しなかった。
15	17. 1. 14	森遺跡 2004-5 次	森北 2 丁目 143-6	調査区東側部分に約 1.0×1.0 mのトレンチを設定し、人力により約 0.6mの深さまで掘削を行った。遺構・遺物は検出しなかった。
16	17. 1. 27	森遺跡 2004-6 次	森北 2 丁目 161-40. 161-41	調査区内北西部分に約 1.0×2.0mのトレンチを設定し、人力にて約 0.6mの深さまで掘削の後、精査を行った。遺構・遺物は検出しなかった。

第 4 表 平成 16 年度発掘調査一覧(4)

平成 16 年度分

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
17	17. 2. 1	寺村遺跡 2004-1 次	寺 1 丁目 10-1. 10-3. 8-2	調査区東側部分に約 1. 3×1. 3 m、約 1. 3×1. 1mのトレンチを設定し、人力にてそれぞれ約 1. 0 mの深さまで掘削の後、精査を行った。遺構・遺物は検出しなかった。
18	17. 1. 20 ～ 17. 2. 14	郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次	郡津 3 丁目 1371-9. 1373. 1374	調査区内に約 1. 0×1. 0m程度のトレンチを 7 カ所設定し、約 0. 6～0. 9mの深さまで掘削を行ったところ、第 7 トレンチより、遺構・遺物が検出されたため、範囲を拡大して調査を行った。 (本書 11 ページに記載)
19	17. 2. 23	東倉治遺跡 2004-5 次	東倉治 4 丁目 2204-1 の一部	調査区東側部分に約 1. 4×4. 8mのトレンチを設定し、重機にて約 0. 8mの深さまで掘削を行った。遺構・遺物は検出しなかった。

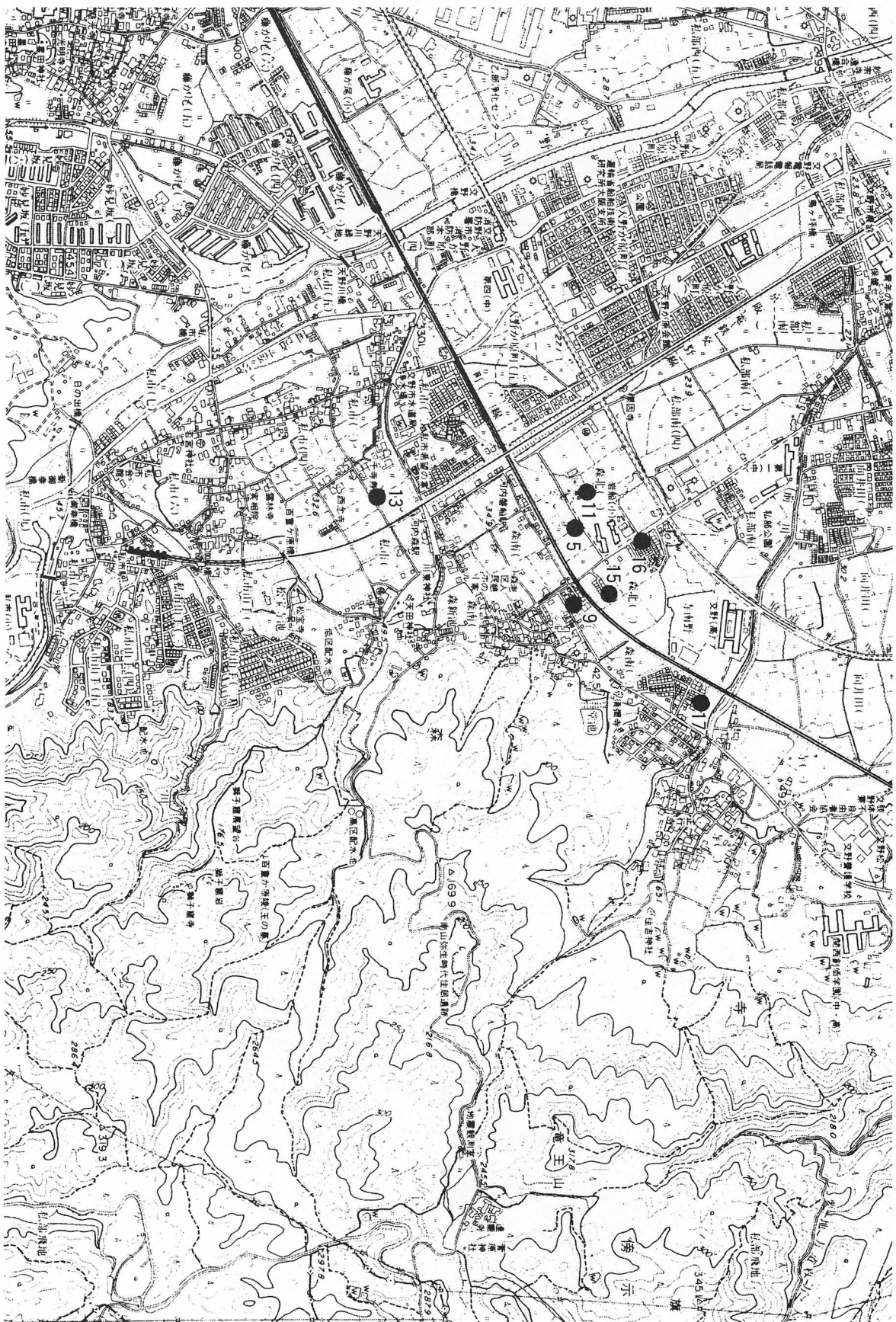
第 5 表 平成 16 年度発掘調査一覧(5)



第1図 遺跡分布図(1:30,000)



第2図 調査地位置図(1) (1:15,000)



第3図 調査地位置図(2) (1:15,000)

第2章 発掘調査報告

第1節 森遺跡

遺跡の概要

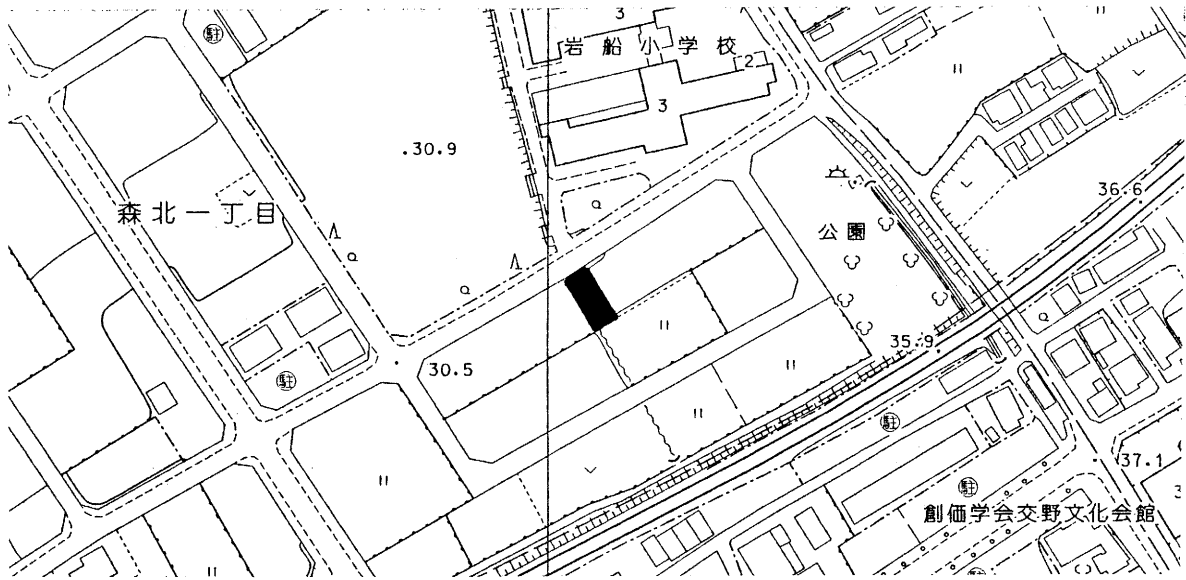
森遺跡は、交野市内の中央部に位置し、尾根先端の台地部分に拓けた弥生時代から中世にかけての複合遺跡として、古くから知られている。近年JR河内磐船駅前の開発が進み、これに伴う発掘調査の成果から古墳時代前期から後期に至る一大集落地として、市内でも有数の遺跡であることが判明した。

調査の概要

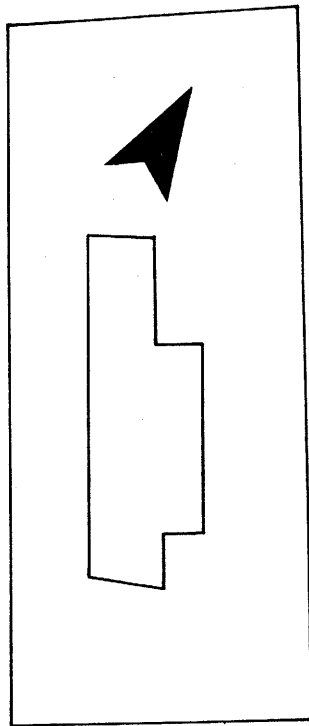
森遺跡 2004-1 次調査（森北1丁目101-1）

個人住宅建設に伴う発掘調査である。調査地中央に約1.8×9.3mの大きさのトレンチを設定し、重機にて深さ約1.0mまで掘削し、その後人力により掘削及び精査を行った。盛土の下は、遺構面まで6層堆積しており、上から順に第2層（旧耕作土層）が約0.2m、第3層から第5層まで約0.1mずつ堆積していた。トレンチ中央やや北寄りに第6層が現れ、この層はさらに北へと続くと考えられる。第5・6層からは、中世と思われる摩耗した遺物の破片が見られた。第7層は古墳時代の遺物を含む黒褐色粘質土で、約0.2m堆積していた。遺物は実測不可能な細片のみであった。この層の下から古墳時代の遺構面を検出した。西側断面に直径約0.6m、深さ約0.4mの土壙1を検出し、東側断面にも溝状遺構の一部が見られたため、さらに東側にトレンチを拡張することとなった。ただし調査地が狭小なため、一旦西側トレンチを埋め戻してから掘削を行った。拡張トレンチは約1.4×5.0m、深さ約1.1mの大きさで、古墳時代の遺構を検出した。ピット1は直径約0.5m、ピット2は直径約0.3m、深さはいずれも約0.1m程である。溝状遺構は幅約0.8～1.1m、深さ約0.4mで、トレンチのさらに東へ続くと思われる。

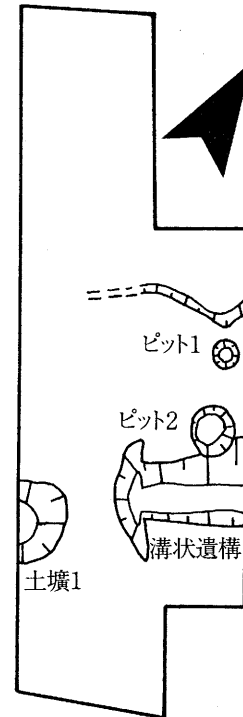
同調査地の周辺には、平成8年度に行った土地区画整理事業に伴う発掘調査地及び平成13、14年度に行ったマンション開発に伴う発掘調査地がある。これら調査地の発掘調査結果では、中世の遺構として川状遺構・水田遺構・建物跡、古墳時代の遺構として溝状遺構、建物跡を検出している。今回の調査地は面積が狭小で遺跡の性格を把握するには無理がある上、中世の遺構も検出できなかったが、古墳時代の遺構は一連の調査結果と同様に集落の一部を形成するものと考えられる。



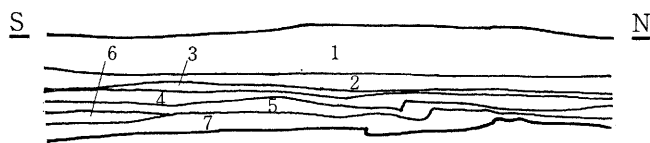
第4図 調査地位置図(1:3,500)



第5図 掘削地位置図(1:200)



第6図 遺構平面図(1:100)



第7図 トレンチ東側断面実測図(1:100)

- 1. 10YR8/3 浅黄橙色粗砂
- 2. 10YR6/6 明黄褐色シルト
- 3. 10YR4/1 褐灰色シルト
- 4. 10YR6/1 褐灰色シルト
- 5. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土
- 6. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
- 7. 10YR3/1 黒褐色粘質土

第2節 郡津梅塚・交野郡衙跡

遺跡の概要

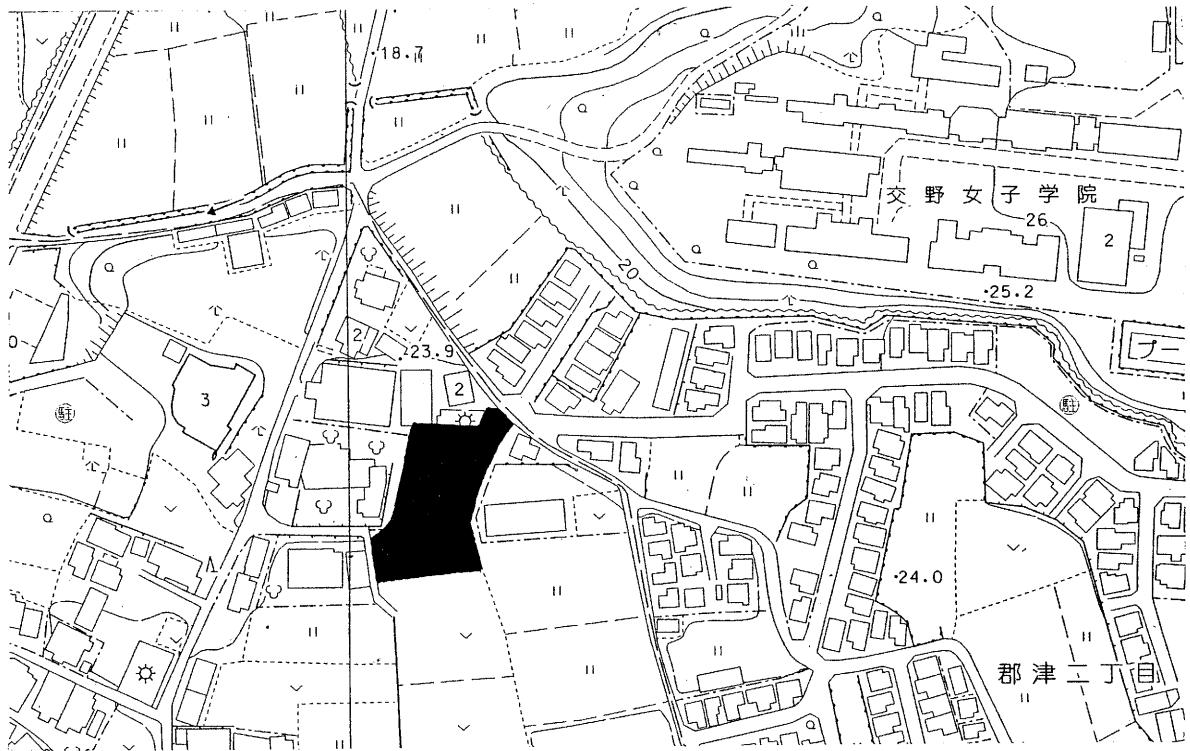
当遺跡は、郡津梅塚と交野郡衙跡の2つの遺跡からなる。交野郡衙跡は、『北河内史蹟史話』の中で、平尾兵吾氏が郡津の位置と交通に着目して、郡衙跡を推定したのが最初である。同氏は、東高野街道、磐船街道、峽崖（かいがけ）道などの大道が郡津に集中していること、天野川流域の条里制の中央に郡津が位置していること等を郡衙の存在根拠としている。郡衙の可能性を示す資料としては、昭和51年度の小字「くらやま」一帯の範囲確認調査において、白鳳期の瓦等を多数検出したのを始め、交野郡衙跡93-1次及び98-1次調査においても奈良～平安時代の建物跡を検出したことが挙げられる。一方、郡津梅塚は既に消滅している古墳である。『河内名所図会』に、梅塚と本塚の2つの古墳が郡門（こうづ）村にあるが、由縁不詳と記載されている。「梅塚」の地名が残る辺りは、一面水田が広がり古墳の高まりすら残っていないのが現状である。

調査の概要

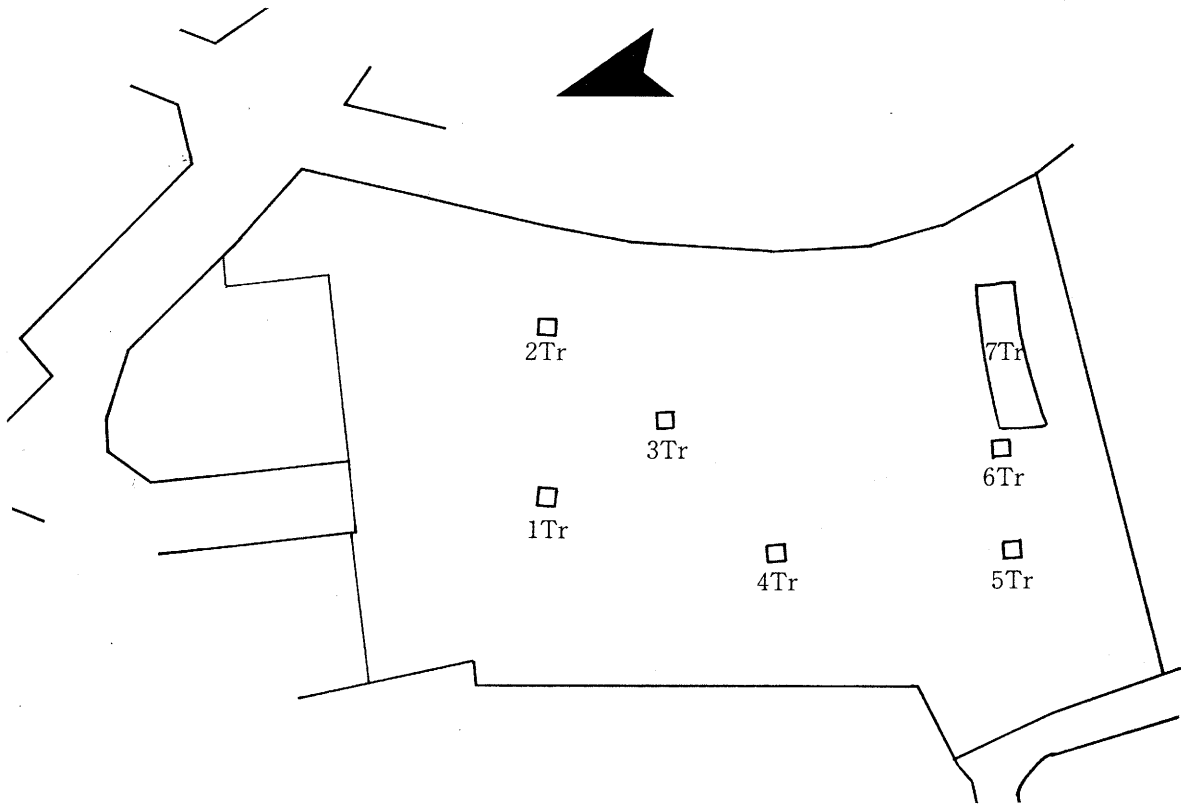
郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1次調査（郡津3丁目1371-9他）

当調査地は、宅地造成に伴う確認調査で、開発面積が1567.32㎡と広範に及ぶため、調査区内7カ所に約1.0×1.0mの大きさのトレンチを設定し、人力にて掘削をおこなった。その結果、第7トレンチを除く全てのトレンチでは、表土を除去するこの地区特有の黄褐色の粘質土（地山）となり、畑地として利用される以前に土地を削平してしまっているため、遺構、遺物を検出することはできなかった。一方、第7トレンチは、かろうじて削平を免れた部分で、遺構・遺物を検出したため、トレンチを拡大することとなった。

第7トレンチは、調査区内の東南部に位置する約2.5×10.0mの大きさのトレンチである。表土約0.2mを除去すると明黄褐色で粘質の溝状遺構が東西方向に幅約4.1mにわたって見られた。深さは最深部で約0.3mと浅く、この溝状遺構は南北方向に更に伸びていたと思われるが、調査以前に既に破壊され、規模は知ることができない。ただ遺構内埋土より7世紀中頃の須恵器片、土師器片等を検出しており、その頃には溝としての機能は果たしていなかったと考えられる。この他ピット3基を検出したが、ピット1が深さ約0.15mを測る他はかろうじてピットの痕跡を留めるにすぎなかった。



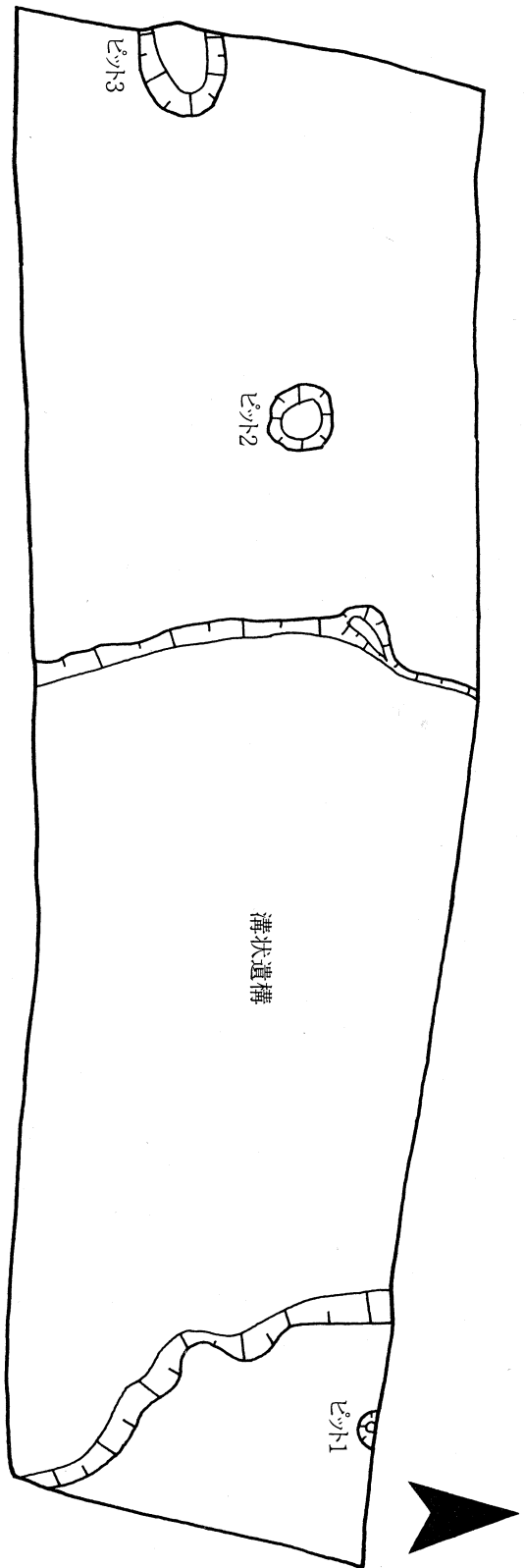
第 8 図 調査地位置図(1:3, 500)



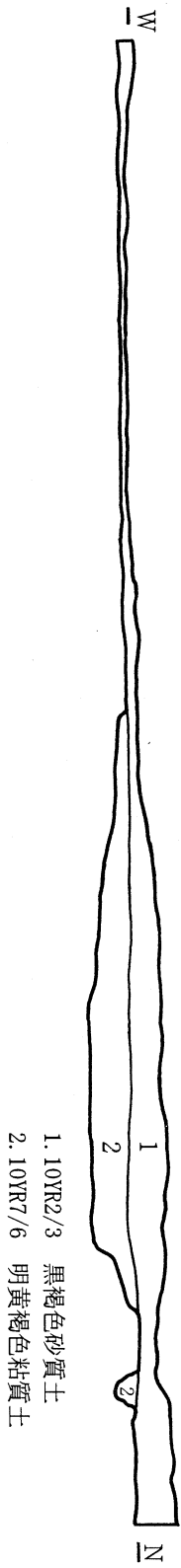
第 9 図 掘削地位置図 (1:500)

出土遺物は、溝状遺構の中からのみ須恵器・土師器等を検出した。いずれも破片であり、完全な形のものはない。特に土師器は、壺・甕等の細片がみられたが、摩滅したものが多く復元することはできなかった。

第 12、13 図は、その中でも実測可能な遺物の図であり、10 が土師器の高杯脚部である以外は、全て須恵器である。1・2 は、杯身である。復元口径は約 14cm、復元器高約 4.5cm、受部は上外方に延び、端部はやや丸くおさまる。立ち上がりは内傾してのびる。底体部は浅く平らである。3～5 は、いずれも小振りの杯蓋である。3 は擬宝珠様のつまみを有する。口縁部内面には内傾するかえりを付し、かえり端部で接地する。4 は、復元口径約 10.5cm、器高 2.7cm。天井部は低く平らで、口縁端部は丸くおさまっている。内面天井部にへら描き文を有する。5 は、復元口径約 12.0cm、器高 3.2cm。口縁端部はやや丸く仕上げられている。6・7 は、短頸壺である。復元口径約 5.0cm、残存器高 5.1cm。胴部上位に 1 条の沈線が巡る。8・9 は、高杯である。8 は、無蓋高杯の杯から脚にかけての部分であり、9 は、2 段 3 方に長方形透かしを有する高杯の脚部である。脚部の端部は面をもつ。11～13 は、甕である。11 は、頸の長いタイプの甕で、口頸部は外反して上外方にのび、口縁部下で下方にのびたのち、外上方にのびる。口縁端部は丸くおさめ、口縁部内面に緩い段を成す。復元口径約 21.8cm。12 は、復元口径約 21.2cm、残存器高 6.5cm。口縁部下で、横方向にのびたのち、沈線 1 条を付して上外方にのびる。口縁端部はやや丸くおさめ、内面に緩い段を成す。肩部外面、内面ともに平行タタキを施す。13 は、復元口径約 19.0cm、残存器高 6.9cm。頸部は外反して上外方にのび、口縁部は外上方にのびて端部を丸くおさめ、肩部は外下方に張り出す。肩部外面は平行タタキ、内面は同心円タタキを施す。14 は壺底体部である。底部は円盤充填、体部は比較的扁平な形態で、上部にへら削りが見られる。15 は、底部で丸みを帯び、外面に平行タタキ、内面に同心円タタキを施す。以上より、須恵器の特徴からおおよそ 7 世紀中頃の時期が考えられる。

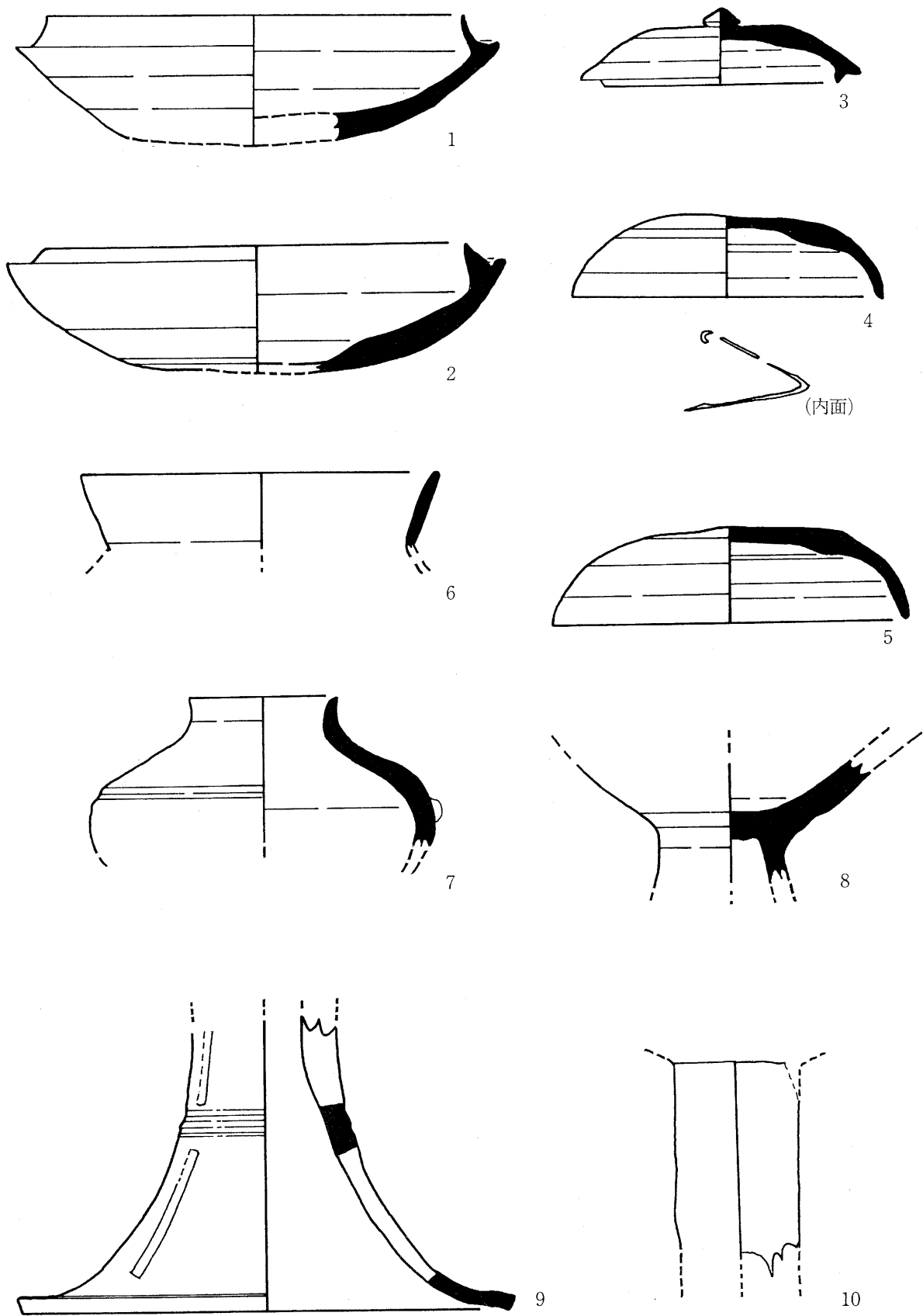


第10図 遺構平面図(1:50)

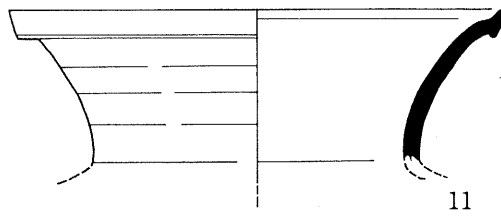


- 1. 10YR2/3 黒褐色砂質土
- 2. 10YR7/6 明黄褐色粘質土

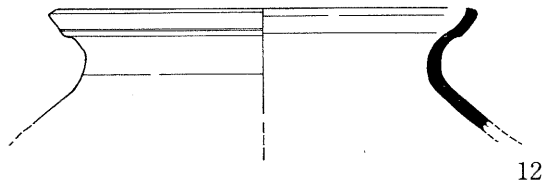
第11図 第7トレンチ北側断面図(1:50)



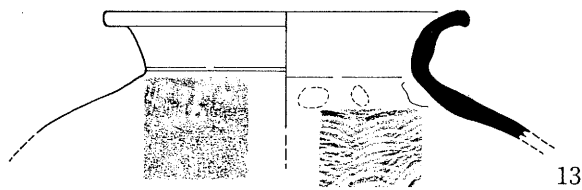
第12図 出土遺物実測図(1) (1:2)



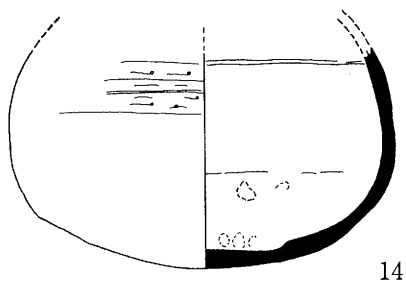
11



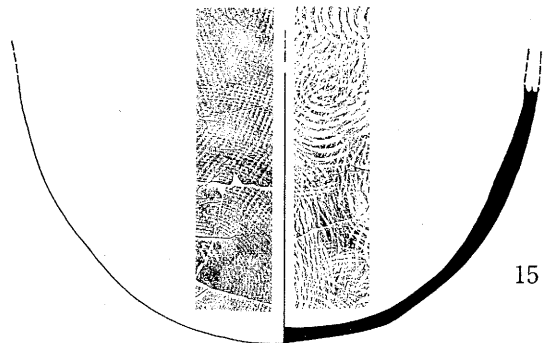
12



13



14



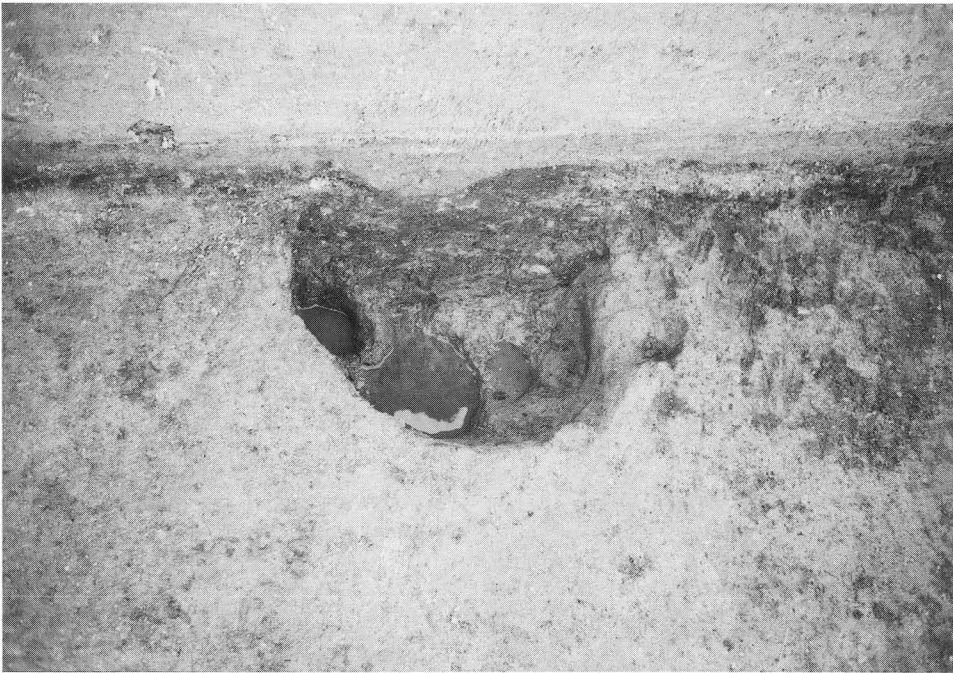
15

第13図 出土遺物実測図(2) (1:4)

版 圖



図版1 森遺跡 2004-1 次 西側トレンチ全景



図版2 森遺跡 2004-1 次 土壙1



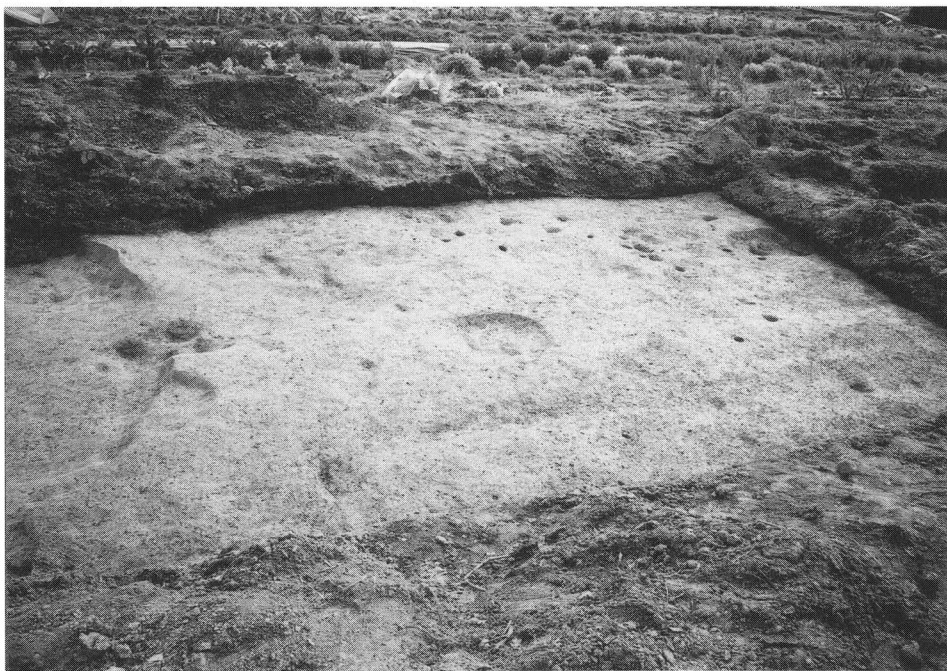
図版3 森遺跡 2004-1 次 ピット及び溝状遺構



図版4 森遺跡 2004-1 次 東側トレンチ遺構検出状況



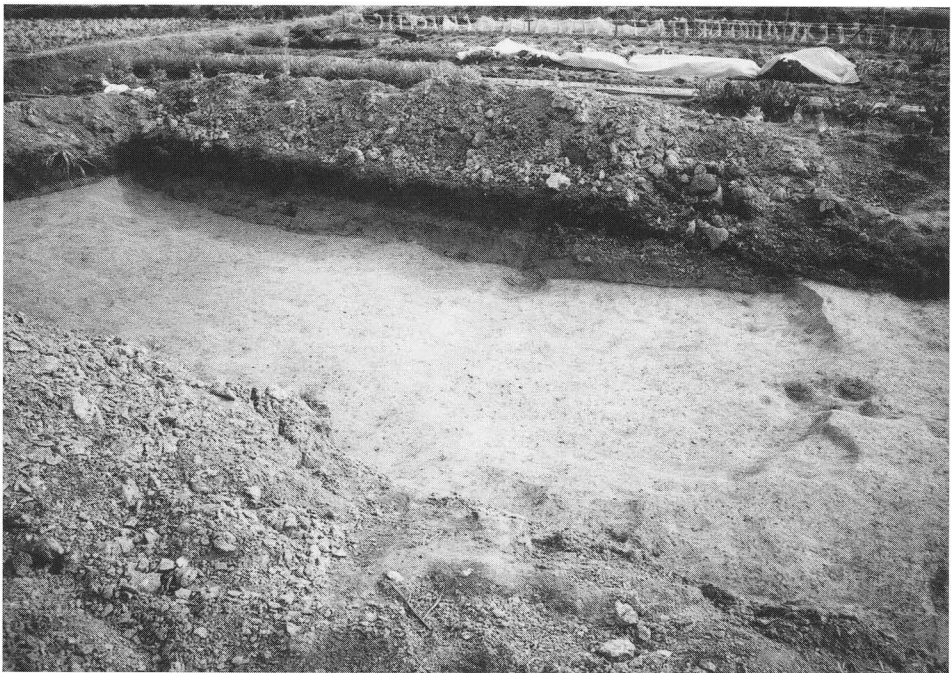
図版5 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次 第7トレンチ全景



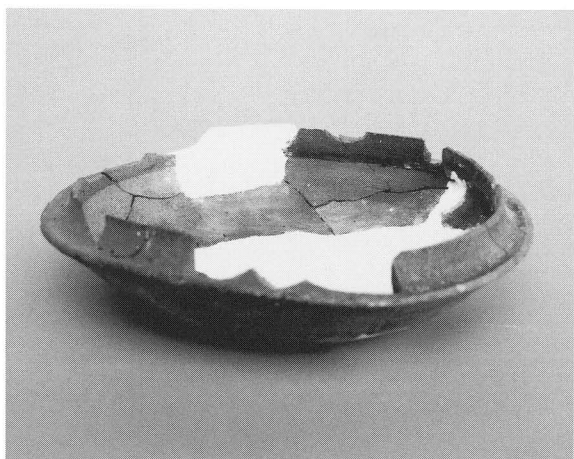
図版6 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次 第7トレンチ遺構検出状況（西側）



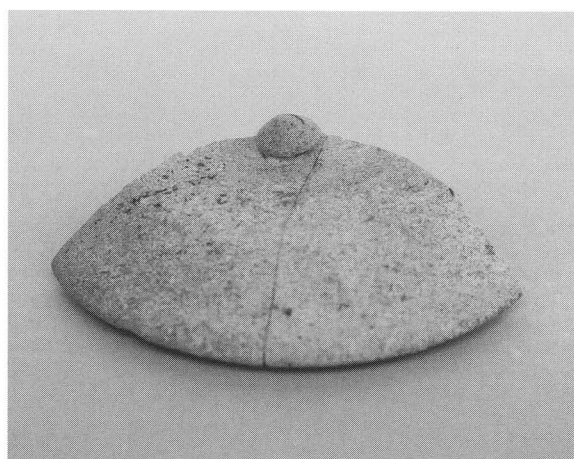
図版 7 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次 第 7 トレンチ溝状遺構検出状況（東側）



図版 8 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次 第 7 トレンチ遺構完掘状況（東側）



1



3



4



5

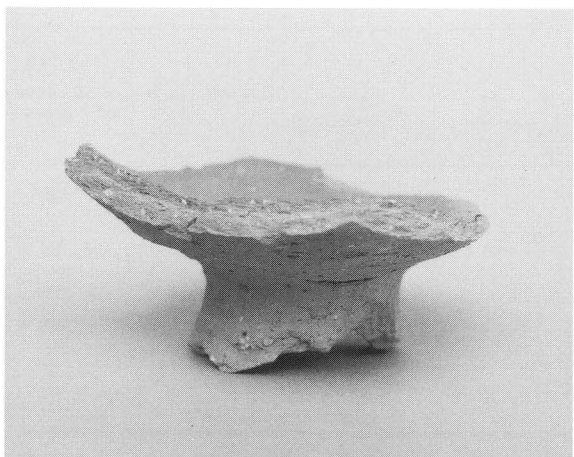


7

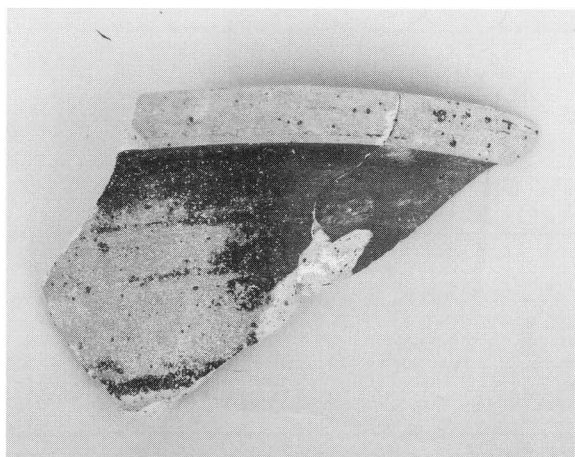


9

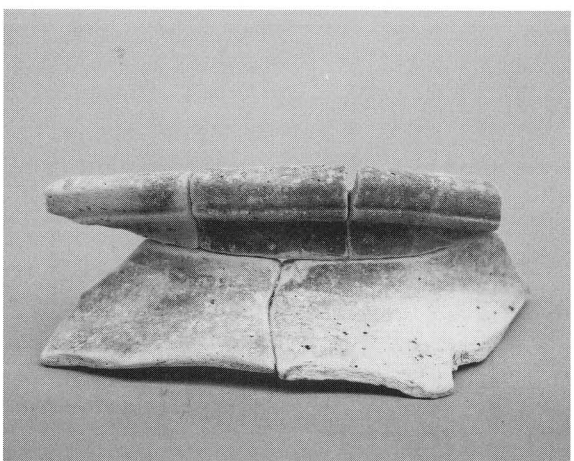
図版9 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次 出土遺物(1)



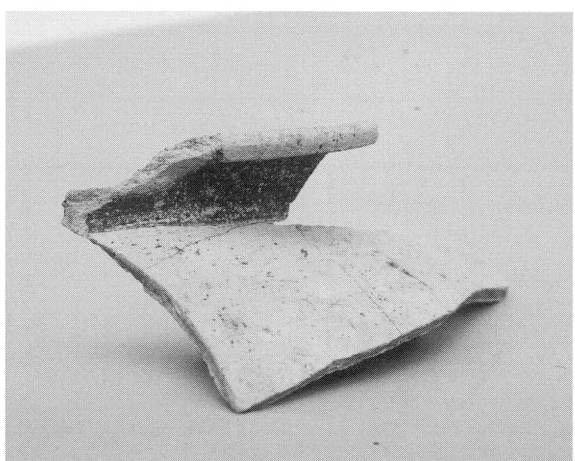
8



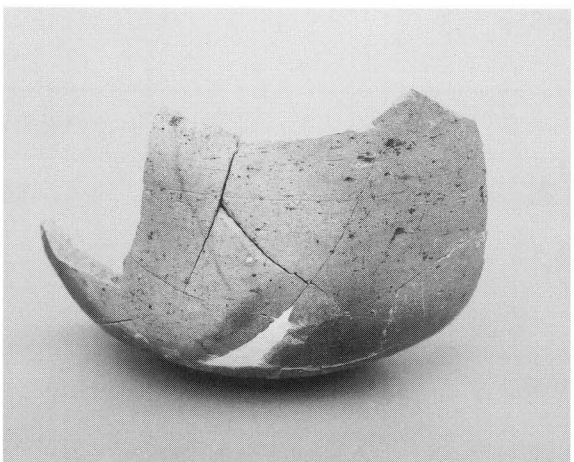
11



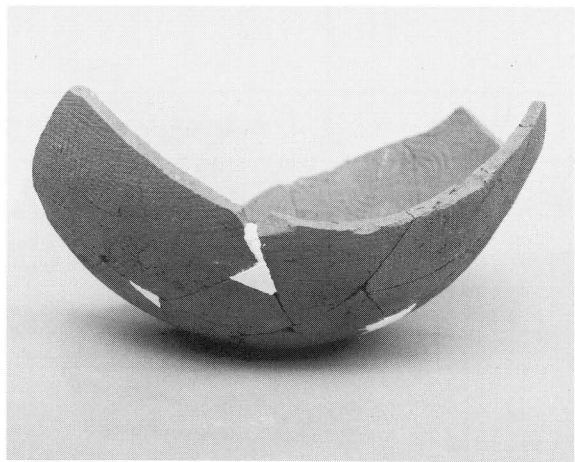
12



13



14



15

図版 10 郡津梅塚・交野郡衙跡 2004-1 次 出土遺物(2)

報告書抄録

ふりがな	へいせい16ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう							
書名	平成16年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要							
副書名								
巻次								
シリーズ名	交野市埋蔵文化財調査報告 2004-I							
シリーズ番号								
編著者名	奥野和夫 小川暢子							
編集機関	交野市教育委員会							
所在地	〒576-0052 大阪府交野市私部1丁目1番1号 TEL(072)892-0121							
発行年月日	西暦2005年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
もりいせき 森遺跡 2004-1次	かたのしもりきた 交野市森北	27230		34° 47' 30"	135° 40' 41"	2005.4.16 ～ 2005.5.14	23.5	個人住宅
こうづうめつか 郡津梅塚 かたのぐんがあと 交野郡衙跡 2004-1次	かたのしこうづ 交野市郡津	27230		34° 46' 45"	135° 41' 43"	2005.1.20 ～ 2005.2.14	31.5	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
森遺跡	散布地 集落跡	弥生 古墳 中世		溝 土壇		須恵器 土師器		
交野郡衙跡	散布地 集落跡 官衙跡	弥生 古墳 中世		柱穴 溝状遺構		須恵器 土師器		

平成16年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発行日 2005年3月30日

編集・発行 交野市教育委員会
大阪府交野市私部1丁目1番1号

印刷所 京阪工技社

(本報告書は、再生紙を使用しています。)



